

第4回 琵琶湖活用推進検討会議 概要

1. 会議の概要

- ◇日 時 平成30年2月23日（金）10：00～12：00
- ◇場 所 大津合同庁舎 7-C会議室
- ◇出席委員 8名（欠席5名 小原、川戸、久保、栗田、森田各委員）
- ◇議 題 「琵琶湖保全再生に向けた活用のあり方」案について
平成30年度琵琶湖活用関連事業について 他

2. 主な意見等

(1) 「活用のあり方」案について

【過去の経緯】

- 琵琶湖総合開発は、生態系へも深刻な影響を与えた、そのことがこの文章からは読み取れない。
- これまでの保全や開発の政策の評価を明確にすることが必要。

【市民活動】

- 石けん運動こそはまさに琵琶湖での先駆的な事例であり、もう少し詳しく言及を。
- 施策を行うのは県のみではない。「保全を巡る住民の取組」も踏まえる必要があるが、そのあたりが言葉足らずであり、書き込みをお願いしたい。

【レジャー客による保全活動】

- レジャー活動に対して規制や監視という言葉が並ぶが、バス釣り師によるゴミ拾い活動や、湖底清掃活動なども行われている。規制も大事だが、レジャー客とも一緒に環境改善をしていく姿勢が出せないか。
- 清掃活動をする釣り人が守りたいのは、果たして琵琶湖なのかバスなのか。
- レジャーでの活用のみならず、清掃活動や外来植物駆除活動を通じて学ぶことが多い。（⇒事務局：「琵琶湖で学ぶ」や「琵琶湖でつながる」の中に反映したい。）

【「循環」について】

- メインコンセプトは「循環」だと思うが、それをどのような工夫で動かすのかが弱い。当然には循環は生まれない。大きな循環が想定されているようだが、例えばNPOが地域資源を活かして活動資金を獲得するような小さな事例も循環であり、そのような例をどう育てて行くのか。視点が大きすぎて、そのようなことへの支援ができない。小さな循環の視点から、ひとつでもふたつでも成功例があればよい。
- メインになるのは「循環」。非常に重要だが、いろんなレベルの循環があり、丁寧に書きこむ必要がある。「活用と保全再生との循環」に、はじめ・中盤・終わりと

絶えず言及を。

【マリーナについての記載】

- マリーナが「湖の入り口」として上がっているが、一番身近なのは水泳場だろうし、ここまで言及されているカヌーやSUP、ヨットなどが自然な流れではないか。

【就業へのインセンティブ】

- 林業は重要な役割を果たしているが、人材の確保が困難。林道を付けるのも、きれいにすればインフラだが、下手につけると山を傷つけているだけ。森林学習を通じて価値を伝えるだけではなく、地位やイメージの向上も伴い、「森で働こう」と思えるところまで伝えて欲しい。「働く人が守る人」となる。
(⇒事務局：就業にまでつながるような啓発ができるよう、ご意見を共有したい。)
- 先の森林と同じく、県内企業においても人材不足の問題は深刻。失われた10年の間に採用を抑制した結果、今の働き盛りの世代が不足している。使う水より捨てる水にお金をかけるなど、滋賀の企業は環境意識が高いので、啓発や学習の中で「滋賀で働く、琵琶湖で働く」ことを伝えて欲しい。せっかく大学も多いので、琵琶湖で働くことで、琵琶湖を活かすことができる。

【活用推進の発信】

- このような活用検討こそが先進事例。策定後、活用を進めていることを、しっかり広報して発信して欲しい。
- 滋賀は先進地だが、他の最新の事例も見ながら検討することが必要

【河川の扱い】

- 湖岸以外の地域では、「琵琶湖」のことは他人事と思われている方も多い。県内各地からの流入河川があり、それを守る必要があることを明記したほうが良い。

【利用に伴う負担のあり方】

- 活用関連事業の中に「ごみの持ち帰りの啓発」とあるが、北小松の水泳場では、協力金を支払って入場し、ゴミを捨てることができる。トイレもあり、利用者としても大変便利。自治会で管理されているのだと思うが、この形式を進めていくとよいのでは。
- これはまさに負担のあり方の問題。次年度の検討事項。「チャージ」の検討が必要だと思う。利用の対価のみでなく、環境負荷に対する料金の含め、制度を検討する時期に来ている。いろいろな事例を見ながらの検討を。
- 観光客に負担いただくことは想定できるが、国体やオリンピックをめざし、毎日ボートを漕いでいる地元の子ども達がいる。この子たちにも課金をするのか。どういふ人に負担いただくのが難しいところ。
- 施設では（負担の分かち合いとして）水草清掃なども実施しており、一部県の補助をいただいている。

(⇒事務局：人々を湖から遠ざけてはいけない。様々な可能性を広く検討したい。)

(2) 平成 30 年度琵琶湖活用関連事業について

(平成 30 年度事業のうち、琵琶湖活用に関連するものを取りまとめ紹介)

○ いろいろな分野が網羅されているが、統括する所属はどこになるのか。また、関連予算は課題分析を基礎につくられたのか。

(⇒事務局：予算作成は「あり方」作成と並行して進んでおり、「あり方」を念頭に組んだ予算ではない。)

○ 次年度予算は並行作業なので仕方がないが、その翌年度にでも、「活用と保全との循環モデル」事業をぜひ実施して欲しい。

○ ホームページで発信をしている「今日のびわ湖」について、湖北や湖南の湖岸の小学生が自分たちで写真を上げるようになどできないか。

○ 活用の視点で事業をまとめたのは初めてかと思う。今後は進捗の把握を。

○ 事業主体は国になるのかもしれないが、大きなハード整備などの情報は、プラットフォーム等を通じて発信・共有をして欲しい。

(3) その他

【魚のゆりかご水田について】

○ 湖岸の整備で水害は減ったが魚の遡上が無くなった。「魚のゆりかご水田」は、そのつながりを取り戻す施策

○ 「ゆりかご水田」の米でお酒をつくるなど、お金がおちるしくみが欲しい。

【情報提供】

○ (情報提供) 東近江市ではシートゥーサミットやエコツーリズムを展開。連続講座は一過性で無くストーリーができ、参加者同士のネットワークもできた。

○ (情報提供) 「漁民の森」づくり。3/10 に大篠原で実施される。企業の CSR 参加もある。

【以上】